

Ouho kai - Kaihou

編集発行：山口県立大学同窓会桜圃会

〈事務局〉〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX083 (925) 7485 振替口座01570-2-25095

メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

印刷：(株)マルニ

# 桜圃会 会報

Vol.58

平成22年3月1日発行

特色GP 「重層的學生支援教育」による福祉人材養成

現代GP やまぐち多世代交流・地域共生授業の展開

現代GP 持続可能な社会に繋がる人的財産の育成



社会人GP 行動変容を促進する栄養指導法を身に付ける栄養士キャリアアップ支援プログラムの開発

学生支援GP 総合的人間関係力を涵養する学生支援

国際化加速GP 英語で世界に発信する地域遺産教育の開発

## キャンパス総合計画の 実現をめざして

会長 吉村 京



今から22年前の平成元年、

当時の山口女子大学が開学50周年を迎えるに当たり、記念行事・記念誌の発行と大学の環境整備が企画されました。特に記念建造物（仮称桜圃会館）

等の建設を目標の一つとして基金造成の募金活動が展開され、賛同された多くの会員の皆様方から暖かいご支援を賜りました。

しかし、その後大学の総合的な整備充実計画が検討される中で記念建造物の建設は見送られることとなり、平成8年の学制改革による看護学部棟の建設時に新講堂として「桜圃会館」が建設され、募金の一部がこの施設の一部に充てられました。

また、平成13年（2001年）には桜の森事業がスタートし、桜圃会員も桜の森のオーナーとして参画することを通じ、桜の成長を見守りつつ、桜の森にキャンパスが移転する日を楽しみに

しております。  
桜圃会館は、学内はもちろんのこと、地域に開かれた大学の「顔」として公開講座、講演会、コンサート等々で広く県民の方々に親しまれ認知されてきております。

一方、国道で分断されたキャンパスや老朽化、狭隘化した施設設備は在学生や教職員、さらに受験希望者にとっても、不備、不便の多い魅力的とはいえないキャンパスのようです。

私たちにとっては歴史と伝統のある懐かしい学び舎ではありますが、少子化が進む中において次代を担う人材を育て、地域に開かれた大学の理念にふさわしい教育環境・設備を備えたキャンパス整備が急がれます。

公立大学としての使命を持つ母校の今後の発展を願う時、卒業生として、その実現に向け支援することも桜圃会の役割のひとつではないかと痛感するこの頃です。

（昭和31年被服卒）

## 山口県立大学フォーラム 「存在感のある「地域貢献大学」へ」

山口県立大学学長・理事長 江里 健輔

平成21年は無血革命と大げさに言われるほどの大変革の年でありました。すなわち、「政権交代」です。そのため、平成21年11月現在では文教予算がどのように配分されるか不透明であり、いささか気をもんでいるところでした。しかし、明るい話もありました。平成21年11月14日(土)山口県立大学GPフォーラムを開催したことです。GPとは「良い実践」ということで、優れた教育プロジェクトに対し、文科省が財政支援を行うものです。本学では「公立大学ミラクル」と揶揄されるように、平成19年に6つのプロジェクトが採択され、3年間にわたり財政支援を受け、平成21年度が最終年に当たることより、集大成として行ったものです。約6000人の県民、市民の参加を得て、盛大に行われました。基調講演として、京都大学大学院理学研究科教授山極寿一先生が「環境・共生・未来」ゴリラが

教えてくれたこと」と題して実証的な学術研究成果を述べられました。その後、各分科会(大学を生かした地域づくり、地域に生かされた大学教育、環境人材育成に向けた地域と大学の共育、栄養士キャリアアップのこれから、「やまぐち地域遺産スタディーズ」構築とその後の取り組み)に分かれ、熱心な討議が交わされました。

地域貢献型大学をフラッグとして、その成果を県民にプロパガンダ出来たと自負しています。山口県立大学は今後も県民に信頼される大学として、鋭意、努力する所存でありますので、同窓生の皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。



山極先生講演会

## ボランティア窓口より 「災害時における学生の輝き」

学生活動支援センター所長 人見 英里  
学生活動支援センター  
ボランティアコーディネーター 高崎 裕子

平成21年6月1日、学生活動支援センター内にボランティア窓口を新設しました。7月22日、中国地方の各所に大被害をもたらした前日の豪雨により、宮野地区も断水となりました。

7月23日午前、約30名の学生が出来ることから始めようと、夕刻より宮野地区の給水所(宮野小学校、県営住宅)で、給水、運搬等の補助、交通案内等を開始しました。活動の輪はどんどん広がりが、あつという間に約100名の学生がボランティア登録をし、全戸の水道復旧が完了した29日まで、授業の合間を利用しながら活動しました。引き続き、山口市では、災害ボランティアセンターの運営に携わり、防府市では、教職員を含めた約60名が、災害ボランティアセンターの運営、復旧活動にあたりました。

また、岩手県立大学の学生ボランティアセンターから贈られた南部鉄の風鈴の音色に勇気づ

けられながら、義援金募金活動も行いました。

今回の活動を通して、学生の若さには、災害で混乱し暗くながちな現場にパッと明るい光を放つような、そんなパワーがあることに気がつきました。ボランティア窓口としては、学生ならではのこの輝きを、社会人となつた後も失うことなく、常に自分の可能性にチャレンジし、自らの力で未来を切り開いていくことが出来るような、タフで心優しい学生の育成を目指してまいります。今後とも、よろしくお願いたします。



## 卒業生の声をお聞きする システムののご案内

教育研究活動等点検評価委員会  
准教授 乃木 章子

昨年の桜園会会報で予告のご案内をしましたが、本学では、「卒業生の声を生かして教育活動の改善方を検討する仕組みづくり」を進めています。

今年度は、パソコンよりも身近で、ほとんどの方がお持ちの携帯電話から、お声を聞かせていただく「卒業生の声を聞くポスト」を開設しました。

アクセスは簡単です。携帯電話から左のQRコードを読み込むことにより、ポストに繋がります。アンケート形式の問いが表示されますので、お答えください。

結果は、在学生への教育活動に役立てていきますので、ご協力をよろしくお願致します。なお、集計の都合上、3月中旬にアクセスをお願致します。



(卒業生の方はこちらから)



(平成21年卒業生の方のみこちらから)

アンケートにお答えいただきながら、県大フォトギャラリーをご覧ください。

桜圃会第30回記念公開講座  
山口県立大学客員教授特別講演会

「いつだって心は生きています」  
一人ひとりに寄り添うケア」

平成21年12月4日(金)、グループホーム「ふあみりえ」ホーム長の大谷るみ子氏により「いつだって心は生きています一人ひとりに寄り添うケア」と題して、桜圃会第30回記念公開講座が行われた。

毎日、グループホームで認知症の人と関わる中で、高齢者との関わりは特別な関わりでは無く、普通の関わりであり、その「関わり」が重要であるとの認識から、グループホームで出会った多くの高齢者との体験を交えての講演となった。



認知症の人は、「わかる力」が不足している。ここがどこであるのか、目の前の人が誰であるのか、これからどんな体験をするのか。現実を判断し、未来を予測して行動することが困難であり、何が起るのかわからない「わからないだらけの中」で、じつとすることが出来ず、生活している。それを、問題を行動として捉えるの

ではなく、「困っている人」として捉え関わる必要がある。

グループホームでは、排泄のとき、便をトイレトペーパーに包み、ポケットにしまっている高齢者もいる。これは、「水洗便所の流し方が分からない」、「人様に迷惑を掛けてはいけない」と、自ら考え抜いた結果である。この高齢者は過去に、清掃の仕事をしており「便をきれいにしなくては」との思いもあった。その人の生きてきた歴史が、行動となつて現れてくることもある。人生の物語のつながりを支援させていただいていると感じる。

人にとって幸せとは、愛する人や好きな人のために、自分が役割を務める時間があることである。職員の結婚式に参加する、地域の中でカレー店を開く等、様々な試みの中で、自らの思いを実現し、役割を持ち、地域との交流を図る等、活動を行っている。

過去を振り返ることが出来ず、未来を予測することが出来ない認知症の人にとっては、現実の今がすべてである。今を過ごしていたいたくためにも、笑顔で「命」、

「暮らし」「人生」と関わっていくことが必要であると、大牟田市での実践を含めて話され、講演を終えられた。  
(平成14年社会福祉卒 竹永記)

平成21年度  
大学との  
情報交換会報告

本年度の情報交換会は、2回開催された。1回目は5月23日(支部長、理事出席)、2回目は11月26日(理事出席)。

5月の会では、大学の近況報告として、GPA制度により学生を丁寧アシストしていく学習支援・公務員講座開講などの就職支援・別科として認定看護師教育課程(感染管理分野)の立ち上げなど。江里学長の「地域貢献型大学であることを形で示していくことが大学の発展

に繋がっていく」という話や、伊嶋副理事長の「県立大学のファウンダーを増やしていくことが課題」との話が印象的。各支部からは、大学の情報をいかに伝達していくか、入学したいと思える大学であつてほしいなどの声。

11月の会は、キャンパス移転と開学70周年記念事業について意見交換が。キャンパス移転については、桜圃会としては、同窓会に寄せられ保存している資料等の展示や会員が立ち寄り交流の場がもてるスペースのある桜圃会事務局をぜひプランに加えてほしいと希望した。今後教職員の方からの意見も踏まえてより練った構想にしたいとのこと。開学70周年記念事業については、大学から同窓会への協力を求められた。  
(昭和49年保育卒 石崎記)

人事異動

- 退職  
足立 蓉子 大学院健康福祉学研究科教授  
マーンバトリニ 大学院健康福祉学研究科教授  
榎原 朗 大学院健康福祉学研究科教授  
慎 變重 大学院健康福祉学研究科教授  
近藤 淳子 国際文化学部教授  
JATDJちゃんた 国際文化学部准教授  
高野 和良 社会福祉学部教授  
小野本ヒロコ 看護栄養学部特任教員  
伊原 靖二 生活科学部教授  
中川 洋子 共通教育機構教授  
松成 恵 共通教育機構准教授  
松本 耕二 共通教育機構講師  
永崎 研宣 情報化推進室准教授

- 新任  
永本 隆 社会福祉学部准教授  
林 亜由美 社会福祉学部助手  
後藤みゆき 看護栄養学部講師  
野坂久美子 看護栄養学部講師  
原田 良子 看護栄養学部助手  
内田 美保 看護研修センター専任教員  
吉岡 一志 プロジェクト支援室助教

- 事務局職員転出  
阿野 徹生 長門市副市長  
前田 安典 総合政策部秘書課  
磯部 功雄 水産研究センター  
藤井 健二 下関児童相談所  
秋山 裕子 教育庁教育政策課  
松若 政男 農林水産部農村整備課  
大塚 陽子 総務部学事文書課  
松浦 芳裕 美祢土木事務所

- 事務局職員転入(法人採用)  
木村 泰則 経営企画室長  
・香川 正宏 経営企画室主任  
・梶 建次 経営企画室付け主査  
・佐々木雄士 経営企画室付け主査  
・山本 素子 経理グループ主任  
・岡田 武士 教務グループ主任  
・尾崎 康一 教務グループ主事  
・大沼 貞哉 教務グループ主事  
・松田 和也 学生支援グループ



## 平成21年度 桜園会総会開催

第65回桜園会総会が平成21年5月24日(日)ホテルニュータナカにおいて113名の出席を得て開催されました。

司会の杉村名奈美さん(看護平15)の開会の辞に続いて、吉村京会長より嬉しい知らせとして、「大学院博士課程初の修了生」や「福田百合子名誉教授瑞宝中授章叙勲」などが紹介され、江里健輔名誉会長からは「大学のキャンパス移転に関しては、学内卒業生をはじめ、桜園会との連携が必要不可欠であり、よりいっそう地域貢献につとめ県民の理解が必要」とのお言葉がありました。



講演は、山口県立大学国際文学部教授 稲田秀雄先生による「山口に現存する鷺流狂言」と題して、狂言の歴史と現状をお話して頂きました。

狂言は対話中心の喜劇で、同じ演目であっても流派が違おうと見せ方や演出が全く異なるといふ特徴を持つことや、鷺流は明治維新の混乱により一挙に衰微しプロの流儀としては滅亡したにも関わらず、素人の演じる狂言として「芸がこの山口市に現存していることは奇跡である」と熱く説明していただきました。

更に、山口鷺流狂言保存会の米本文明さん、土村廣隆さん、米本太郎さんには、狂言の演目の一つである「鬼瓦」を実演していただき、ユーモア溢れる演技に



会場が笑いに包まれました。

会食時のレクリエーションは、昨年桜園会賞を受賞した、山口県立大学吹奏楽団BLAZEによる演奏でした。美空ひばりやピンクレディーなど懐かしの曲がメドレーで流れ、アンコール曲の「世界にひとつだけの花」は、毛利縫子さん(国文昭34)を皮切りに江里学長や福田先生が踊りを披露し、会場中の拍手の中、とても楽しい一時を過ごしました。

(平成14年環境デザイン卒  
小橋記)

### 平成22年度 桜園会総会のご案内

#### ■日時

平成22年5月23日(日)  
午前10時〜午後2時

#### ■場所

ホテルニュータナカ  
山口市湯田温泉2-6-24  
TEL083(923)1313

#### ■講演

(演題) 「文化を創造する  
ものづくりの世界」  
(講師) 山口県立大学国際文学部  
講師 山口 光 先生

#### ■会費

5,000円  
当番幹事はS39・44・49・54・  
59・H1・6・11・16・21年  
卒業のクラス幹事さんです

\*出席ご希望の方は、5月12日(水)までに同窓会事務局までお知らせください。

### 平成20年度桜園会会計収支決算書 H21.3.31(単位:円)

科目	20年度決算額
収入	
繰越金	5,469,283
経常会費	2,853,000
本部入金	5,240,547
事業負担金	680,000
雑収入	31,710
合計	14,274,540

支出	
総会議費	728,695
支部援助費	377,185
会報作成費	1,064,600
公開講座費	1,239,273
桜園会賞費	84,150
桜の森育成事業費	506,278
入会記念品費	30,999
旅費	283,200
通信費	1,243,225
印刷費	211,010
事務局運営費	0
退職給与引当金	2,326,830
情報管理費	130,000
備品費	78,716
消耗品費	244,571
雑費	194,922
特別会計に繰入	54,455
予備費	200,000
合計	0
次年度繰越金	8,998,109
	5,276,431

### 事務局からのお願い

同窓会の運営は皆さんの会費で成り立っております。会費の納入にご協力下さい。

◆桜園会本部経常会費納入(年間千円)をお願いいたします。

\*65歳以上の会員で希望される方は終身会員になることができます。終身会費は一括払いで一万円です。

◆振込用紙には会員番号(封筒の宛名シール右下)・卒業年・科・勤務先・送金明細・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)を必ずお書き下さい。コンピューター処理を行いますので、郵便番号及び住所(番地、建物名、部屋番号)を正確にご記入下さい。

\*住所、勤務先の変更、改姓の際もお知らせ下さい。

◆ご連絡・ご質問の窓口

山口県立大学同窓会桜園会事務局

住所 〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX 083(925)7485(職員在室日は水・金曜日 10時~17時)

E-mail ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県立大学のホームページからもアクセスできます。

(http://www.yamaguchi-pu.ac.jp)

\*桜園会では、個人情報保護法を遵守し、取り扱いについては慎重に対応してまいります。

## 第九回桜圃会賞 受賞報告

第9回  
桜圃会賞

桜圃会功労賞を

受賞して

森重香代子

昭和30年当時、国文科には、教授として石川彌一、太田静一、上野さち子先生がおられ、講義はそれぞれに実にユニークでした。いま思うと幸運な二年間で、卒論に歌人の宮柊二を選んだことが、その後の私の人生を決定づけ、半世紀を短歌と共に生きてゆくこととなりました。

日本の伝統詩である短歌は、テレビなどで多少の注目を浴びながらも裾野の広がりは見られておりません。若い人達に何とかこの美しい魅力ある詩型を伝えたくて、ささやかな歌誌「香臈人」を発行



して参りました。若い人の県外流出は文芸の世界も同様ですが、それでも少しずつ新しい歌人は育っております。

この度、思いがけなく、短歌というまことに勢微な仕事に対し、桜圃会功労賞をたまわり恐縮に存じます。

今後も、いまの時代にこの小詩型で何を問い得るかを、仲間たちと考えながら歩みを続けてゆくつもりです。

最後になりましたが、山口県立大学、桜圃会のご発展を祈念しつつ感謝の言葉といたします。

(昭和31年国文学)

第9回  
桜圃会賞

奨励賞を受賞して

よさこいサークル

長野 洋子

この度、桜圃会奨励賞をいただきました、よさこいサークル奄美連合萩組です。私たちの活動に期待を込め、このような賞を授与して下さったことを、心から嬉しく思います。奄美連合萩組は当時部員9名で、平成15年に創設されました。現在は部員30名ほどとなり、日々練習に励んでおります。

私たちはよさこいに、人を笑顔に、元気にする力があると信じています。一期一会のお客様との出会いを大切に、少しでも地域を盛り上げていけたらと思っております。これからも大学の



イベントや地域の福祉施設での訪問演舞をさらに積極的に、県外・県内にて山口県立大学の名を多くの人に知ってもらうために活動し、大学、地域に愛される団体を目指します。また、多くの人々に支えられて踊ることに感謝しながら、奄美連合同一これからも頑張っていきます。それが私たちにできる恩返しになればと思います。これからは温かく、見守っていただけたら幸いです。ありがとうございました。

(社会福祉2年)

第9回  
桜圃会賞

奨励賞を受賞して

エコアクション21学生委員会

高橋 由佳

エコアクション21学生委員会は学内のより良いEMSの構築に向け、学生の視点から活動をしています。週に二度の定例会で

は、イベントの準備を行ったり、学内の環境を良くしていく方法を話し合ったりしています。

今年度は学園祭におけるゴミステーションの運営と、エコプロダクツ2009への出展、他大学及び高校・地域との交流を予定しています。前期は野田学園高校で行われた環境フォーラムに参加し、本学の県大フェスタに出展しました。後期にも華月祭等のイベントがあるため、気を引き締めて頑張っていきます。

今年で4年目のエコアクション21学生委員会ですが、まだ学内における認識度が低いと感じています。前年度、学内に向けた広報や情報提供が足りなかったという指摘を受けたこともあり、今年度は掲示板やHP、学内のイベントを利用し、より学内外に開かれた委員会となるよう積極的に活動していきたいと考えています。

これからも温かく見守っていただければ幸いです。ありがとうございました。

(国際文化3年)



## 桜圃会賞応募要綱

功労賞は、

卒業後の会員の活動をたたえ、

- ① 地域社会の文化の振興
- ② 生活文化の創造や普及
- ③ 文化的環境づくり
- ④ 地域社会や文化を担う人材育成

に寄与する活動をしている人に授与されます。桜圃会本部あるいは支部または他の会員の推薦を受けて応募して下さい。

奨励賞は、

準会員(在学生)の活動を支え、右記①～④の活動が期待される人に授与されます。大学教員の推薦を受けて応募して下さい。なお、受賞者は選考委員会の審査を経て決定されます。

● 応募手続き・問い合わせ先

所定の様式に必要事項を記入のうえ、山口県立大学同窓会桜圃会事務局に提出してください。

● 応募日程

(1) 応募期間

平成22年6月1日～8月31日

(当日消印有効)

(2) 結果発表

平成22年10月(予定)

## 家具作りをはじめ

平川 和明



家具屋(エルビーファニチャーワークス)を大学の同級生とはじめて5年目になります。山口市大殿大路に店舗、宮野下に工房を構え、オーダーメイドの家具を中心に制作しています。活動当初は未熟な部分もあり、お客様にご迷惑をおかけしたこともありました。現在は私たちには十分すぎるぐらいの工房と設備を整えることができ、日々制作に励んでいます。

近年は、「やまぐち新進アーティスト大賞」という賞を受賞し、展示会も開催しました。展示会は予想をはるかに上回る来場者数で、



私どもの仕事を多くの方に知っていただく良い機会となりました。その会期中には家具作りを教えて下さった木工所の方々や、

今まで納品させて頂いていたお客様もご来場下さり、お祝いの言葉まで頂戴しました。あらためて私はたくさんの方々に支えられてここまでやってこられたのだと実感いたしました。

今後はそのような方々のご期待に応えられるようにがんばっていききたいと思えます。家具作りを始めてから仕事に追われる日々でしたが、30代を迎え、公私共に充実した日々を送っていきたくと思っています。

(平成18年大学院 国際文化科学研究科修了)

## 遠くて近い往復2000マイルの学舎

大下 由美

縁あって、3年間、隣の広島から通い、昨春大学院博士課程第1期生として健康福祉学博士の学位を取得することができた。山口県立大学に通った3年間は、これまでの学生生活とは異なる貴重な時間となった。夜間開講される授業を受けるために、昼間の勤務を終え、行かねばならぬ学舎は片道100マイル。出発前は、いつも気が遠くなる思いだった。それでもこの距離を3年間通えたのは、山口県立大学の諸先生方や1期生の皆様のお陰だと感謝している。

また、3年間熱心にご指導くださった指導教官の小川全夫先生からは、「世界に仲間を作れ」という言葉をいただいた。この言葉は、とても私の心に響いた。なぜなら、常に世界に開かれている小川先生の研究実践は、自分の研究を活性化する方法として有用だと実感したからである。その他、こ



の3年間で多くの宝物を掘り出すことができた。それは、往復2000マイルという距離の効果かもしれないと思うと、親しみのわく距離に思えてくる。

最後に、加筆修正した学位論文を、「サポート・ネットワークの臨床論」(世界思想社)として公開することになったことを、往復2000マイルの学舎への感謝の意を表し報告する。

(平成21年大学院 健康福祉博士後期課程修了)

## 心とからだの相談室オープン!

当相談室は、地域のみなさんがそのライフスタイルにおいて遭遇する健康や家庭の悩み・不安に対して相談に応じ、みなさんのQOL(生活の質)を高めるための支援を目的としています。

相談・指導には、山口県立大学の教員(医師、助産師、保健師、看護師、臨床心理士、社会福祉士、精神保健福祉士、管理栄養士、その他)が、それぞれの専門性を活かして担当させていただきます。

相談内容についての秘密は厳守いたします。

### 〈利用案内〉

相談場所  
地域交流スペースYucca(ユッカ)  
(〒753-0011

山口市宮野下2989-3)  
相談料 1回40分、3,000円

(同時に6人までのグループ面接も同額)

完全予約制(原則として1週間前までに電話予約)

### 〈お問い合わせ先〉

地域交流スペースYucca(ユッカ)  
コーディネーター 河野まで  
電話 083-934-8011

相談員・最新情報は大学ホームページに掲載しています。

<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp>

## 第14回支部長・理事 合同会議報告

桜圃会総会に先立つ平成21年5月23日(土)午後4時から約1時間、ホテルニュータナカにおいて第14回桜圃会支部長・理事合同会議が開催されました。

東は関東支部から西は大分、佐賀支部まで、県内外18支部の支部長さん等を迎えたのは、吉村会長を始め理事20名です。

吉村会長の挨拶の後、相本理事の司会進行により、各支部から現状報告と情報提供が行われました。

高齢化がすすむ中、役員を引き継がない、若い人の参加がなく支部が活性化しない、など共通の悩みが報告されました。

中でも一番の悩みは、支部長などの役員を引き継ぐことの難しさでした。

これに対し、山口支部から65歳の時に、同期の者で役員を引き受け、順次引き継いでいく仕組みが紹介されました。

役が回るまでは、支部の存在すら認識されない状況ですが、役員として運営に係わることで、次第

に理解と関心が深まり、併せて同窓・同期としての絆も深まっているとのこと。

この仕組みを考えられた先輩の智慧に、改めて敬意を表した次第です。

また、直前に行われた大学との情報交換で、地域に開かれた大学としての母校の発展の様子を理解された支部長さん達は、今後の支部活動への力を得られたようでした。

事務局からは、永年続いてきたある大学の同窓会が終焉を迎えた例が報告され、わが桜圃会の永久なる発展を心から願った次第です。

(昭和37年国文卒 矢儀記)



## 洋子さんへ

(故中川洋子教授を偲んで)

重岡美千代

「あなたたちが私の年になった時、私よりいい女になってなさいよ」—学生時代に洋子さんからもらった言葉の一つだ。あの頃の洋子さんの年齢を越えてしまっただけで、果たして「いい女」になれただろうか。聞いてみたい人は、風のように旅立ってしまった。

7月にがんを告知され、1カ月と少しの闘病生活。8月15日の未明—あまりに早い旅立ちだったため、本来なら知らせるべき縁ある人々にも間に合わなかった。洋子さんらしいと言えば、

らしいけれど、「早すぎるよ」とみんな言いたいと思う。

「先生」と呼ばれることを嫌った洋子さん。だけど、誰よりも「師」だったと思う。研究室で食べた手作りのおでん。ある後輩は、洋子さんにあさりの味噌汁の美味しい作り方を教わったと言っていた。在学中よりも卒業してからの思い出が多い。海外の歩き方も教わった。

「その土地の、一番底辺の人と同じ物を食べたの」という価値観。東南アジアでは屋台を食べ歩き、どこに行っても地元のスーパードヤ市場に顔を出す。洋子さんの旅スタイルが好きだった。



故 中川洋子先生

児童文化学科という縁があったから山口に来たのだと言い、学科無き後、「卒業生の集い」というカタチを生んでくれた洋子さん。まだまだたくさん、話したかった。だから、もしも来世があるならば、また逢いましょう。—ありがとうございました。

(平成元年児文卒)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### ◆教職員

旧職 磯崎マサコ H20.8.12  
現教 中川洋子 H21.8.15

### ◆会員

S23被服 杉井千佐子 H17.7.23  
S44保育 松本信子 H18.3  
S20家事 国松エミ子 H19.12.25  
S20家事 家成美栄子 H20.3.29  
S25国語 杉岡寿美子 H20.4.16  
S20家事 三須愛子 H20.5.30  
S23被服 富永政子 H20.7.15  
S29食物 野正淳子 H20.8  
S20裁縫 前田栄子 H20.10.8  
S24生活 眞邊多重子 H21.2.21  
S55食物 伊東公仁子 H21.5  
S58児文 吉永麻里子 H21.6.8  
S19家事 藤井恵美子 H21.6  
S19家事 有富文子 H21.8  
S28国文 河村郁江 H21.9.5  
S35保育 白石正子 H22.1.10  
S28育児 杉町祐子  
S39被服 西村千恵子  
S44国文 長井小夜子



## 50周年を迎えて

関東支部長 南野 隆子

総会の事を記録した略年譜を見ますと、第一回総会は、昭和33年3月30日(於)松屋ホテル、出席人数36名、会費600円、写真代110円、出席された先生は松本賢治先生、本校より太田静一・西田ミツエ先生と書かれています。会費に対して写真代が高い事に時代を感じます。私が5歳の時の事です。その後50年という時が流れ、支部は多くの会員の熱意と努力に支えられ今日を迎えました。現在会員数は約850名となっています。

さて、記念すべき50回目の総会



講演をされる江里健輔学長

は、平成21年6月13日(於)私学会館、出席人数87名、会費800円、講師は江里健輔学長先生、福田百合子先生でした。盛大な拍手で迎えられたお二人。学長先生は「生きている僥倖」という演題で、身近な健康問題をユーマアを交えてお話しされ、福田先生は「宮野・桜島60年」という演題で、身の様な様々な事柄や、山口県ゆかりの人物、芸能について若々しいお声で話されました。

今年も実りある総会となりますように。略年譜に刻みます。(昭和48年食物卒)

### 桜園会館満席の山口支部 45周年記念事業!!

45周年記念事業実行委員会

委員長 中川 忍子

山口支部の役員は、早川寿江様(国文昭28)方の御苦勞で、65才になった年に任期1年を担当し、64才の副会長が加わる事で、次に続けるシステムになっております。

私が担当しました年の総会で記念になる行事をしてはどうかと提案があり、先輩支部長さんとの話し合いで45周年記念事業をすることになりました。

平成18年には準備委員会を発足し、開催を平成21年4月26日の総会行事と決定し、内容を協議しました。矢儀保子様(国文昭37)の御発案で、昭和63年被服科卒の加藤美枝様の琴の演奏にしようという決り、交渉にあたっていただきました。

平成20年には実行委員会とし、事務局長 弥源治昌子様(国文昭38)方の御苦勞により、600人を超える人が「加藤美枝・コライジコンサート」に集って下さいました。この時の感動は、DVDに収録し、本部にも置いてありますのでどうぞ御覧下さい。

今回も桜園会本部・県立大と共催で、御支援をいただきました。ありがとうございます。(昭和34年食物卒)



中央が加藤美枝さん

### 平成21年度支部会開催報告

開催日	支部名	本部からの出席
21年 4月26日	山口	江里健輔学長/吉村 京会長
21年 6月 6日	福岡	江里健輔学長/安光裕子理事
21年 6月 7日	近畿	吉田節子理事
21年 6月 7日	小野田	松尾量子先生/小橋圭介理事
21年 6月13日	関東	江里健輔学長/福田百合子理事
21年 6月14日	萩	井竿富雄先生/国広勝代理事
21年 6月14日	宇部	ロバート・シャルコフ先生/梅地一枝副会長
21年 6月28日	下関	
21年10月 4日	下松	江里健輔学長/小橋圭介理事
21年10月18日	北九州	水谷由美子先生/福田百合子理事
21年10月25日	佐賀	三島正英副学長/土田敏子理事
21年11月15日	東海	

### 桜園会支部リスト (平成21年12月現在)

支部名	支部長名	支部会員数(名)
山口	伊藤 達子(被服39)	1,384
宇部	嶋本 慶子(食物41)	816
小野田	西田今日子(児文54)	169
下関	松永美代子(被服44)	487
徳山	磯辺 治代(保育43)	354
下松	清木 秩子(国文33)	316
萩	藤井 郁子(国文47)	150
防府	中村真理子(国文56)	454
長門	中澤 允子(被服36)	128
柳井	植野 悦子(被服38)	235
岩国	片岡 郁子(国文41)	225
北九州	高津 優子(食物39)	451
広島	松原 正美(国文33)	587
近畿	赤木 絹子(食物45)	673
関東	南野 隆子(食物48)	873
福岡	宗野 淑(被服39)	452
四国	村松 幸子(食物35)	288
東海	蔵重 文子(国文38)	144
佐賀	久保由美子(食物49)	124
大分	栗屋 文世(国文44)	264

### 編集後記

前号の会報で、卒業生でもある乃木章子先生から検討中であることが報告されていた「卒業生の声を聞くポスト」が、いよいよオープンとのことのお知らせをいただきました。大学で受けた教育内容について、卒業後だからこそ気づいたこと、伝えられることがあるはず。母校の教育の充実・発展のため、そして未来の同窓生たちのため、みなさまの「声」を届けてください。

(大前)